

都中道研

第一二〇号

副会長 吉田 修

府中市立府中第九中学校



第四十九回東京都中学校道德教育研究発表大会が二月十五日に昭島市立福島中学校で行われました。

福島中学校の生徒と五名の都中道部員による持ち込み授業が行われました。持ち込み授業を行うようになって四年目を迎えました。当日は天候に恵まれ、多くの皆様のご参加をいただきました。特に若い先生方の参加の多さに驚きました。

この大会の開催に当たり、多大なるご支援とご協力、ご指導を賜りました文部科学省、東京都教育委員会、

昭島市教育委員会をはじめとする各教育関係機関並びに諸団体の皆様、会場校として公開授業の大役と生徒指導・会場準備を一手に引き受けてくださった昭島市立福島中学校の長野基校長先生と教職員・PTAの皆様、本会研究部の授業者・公開授業研究会関係者の皆様、そして、本大会の企画運営のためにご尽力いただいた研究部並びに役員・委員の皆さんに、心より感謝と御礼を申し上げます。

本大会は大会主題を「これからの道德科の授業」としました。平成三十一年度から道德科の始まりです。一か月後に迫る、道德科の授業の在り方と道德科として目指すものは何かを再度確認することができました。

生徒に確かな道德性を育むために必要なこと、それは教師も生徒も一緒になって理想的な人間のあり方を追求しながら「われわれはいかに生

きるべきか」を、共に考え、語り合う力の育成です。

これまでの道德の時間が目指してきた目標に立ち返りながら発達の段階に応じて道德的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道德」への質的転換を考えた研究部部員による授業と道德科の評価の在り方について発信することができました。

さて、道德科として「特別の教科道德」が来年度から始まります。人工知能が進化し、社会や生活が大きく変わっていくと予想されます。情報化やグローバル化が加速し、複雑で予測困難な時代になるといわれています。

このような時代を生き抜くためには、社会を構成する一員として生徒一人一人が高い倫理観をもち、人間としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話をしながらより良い方向を目指す資質・能力の育成が必要だといわれています。「どのように社会・世界と

関わり、よりよい人生を送るか」を考える時期が到来しているのです。

道德科を要とした道德教育を通じて個人が直面するさまざまな状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうあるべきか、自分に何ができるか判断し、実行する手立てを考え、実行できる力を育むことが必要なのです。

学校は生徒たち一人一人の可能性を開花させ、自立した人間として他者と共によりよく生きる力を形成していくために必要な資質を培う場です。

そして未来社会の担い手としての生徒に、「学びに向かう力を高め、課題や困難の解決策を考え、よりよい選択をし、乗り越えられる力をつけ、よりよい生き方につなげる」ことが求められています。

そのためには、他者と対話し協働しながら、よりよく生きる方策を模索し続けるために必要な資質や能力を身に付けさせることが学校教育の果たすべき役割であると考えます。

塩野七生さんの著書で「生き方の

演習 若者たちへ」という本の中に、

著者が孤独だった高校時代やイタリアでの子育てなど自らの若き経験を

もとに、停滞する世界を生きるコツ

を教えてくださいます。傷つくこと

を恐れずに歳を重ねた著者が二十一

世紀型の自分磨きの術を説いていま

す。辛いときを乗り越えるためには、

「しなやかな強い心が必要です」と

書いています。

道德科の授業では、生徒は価値につ

いて学び、その価値の大切さを取り入

れ、自分の価値観を作り上げます。

異なる価値観をもった者同士が主体

的・対話的な学びを通して、価値理解

を深め、他者理解をし、人間としての

生きかたを学んでいきます。

そこには、自分の考えをもちながら

も他者の異なる考えを認めるという

「しなやかな強い心」が必要です。

来年度から始まる道德科を成功さ

せるために、学校長のリーダーシップ

のもと、道德教育推進教師を中心に道

徳科と道德教育の充実と発展に向けた

取組を推進することを切に願っていま

事務局だより

事務局長

池田 富太郎
中央区立佃中学校

一 平成三十一年度活動予定

平成三十一年一月九日に、役員
会を開催し、次年度の活動予定に
ついて話し合いました。

主な日程は、次の通りです。

◎総会・研修会

二〇一九年五月二十四日(金)

中野サンプラザ研修室

講師 澤田 浩一先生

◎第二回研修会

二〇一九年八月二十二日(木)

◎部員総会研修会

二〇二〇年一月十六日(木)

◎第五十回研究発表大会

二〇二〇年二月中旬

会場・二十三区内公立中学校

◎全日本中学校

道德教育研究大会 鳥取大会

二〇一九年十月二十四日(木)

二十五日(金)

鳥取県とりぎん文化会館

大会主題

「人間としての生き方について自
らの考えを深める道德教育のあ
り方」

〈道德科としての

これからを試行する〉

◎関東甲信越中学校

道德教育研究大会 茨城大会

二〇一九年十一月八日(金)

東海村立東海中学校

大会主題

「自己の生き方について考え
を深め、共によりよく生き
る生徒を育む道德教育」

二 平成三十年度後期活動報告

(一) 第二回研修会

平成三十一年一月十八日に、中

野サンプラザで開催されました。

各部からの報告連絡のち、研究

部の発表として、第四十九回東京

都中学校道德教育研究会研究発表

大会公開授業指導案について、説

明がありました。

【公開授業指導案の説明】

①福守 久子教諭

(渋谷区立渋谷本町学園)

教材名「ネット将棋」

(文部科学省「中学校道德読み物

資料集」)

②戸上 琢也主任教諭

(品川区立品川学園)

教材名「仏の銀蔵」

(文部科学省「中学校道德読み物

資料集」)

※質疑応答等では、特に、「主題に



迫る発問」と「中心発問」との違いなど、発問に関する意見交換が、活発に行われました。

【指導講評】

本会研究部長の月田 行俊校長
(江東区立大島西中学校) より、
指導講評がありました。

特に、「道德科の評価」について、
詳しく説明されました。

(二) 第四十九回東京都中学校道德

教育研究会研究発表大会

平成三十一年二月十五日に、昭
島市立福島中学校で開催されまし
た。

【公開授業】

本会研究部員と福島中学校教員が
連携し、五学級で公開授業を行いま
した。

○一年一組 福守 久子 教諭

(渋谷区立渋谷本町学園)

○一年二組 佐野 貴昭 主幹教諭
(昭島市立福島中学校)

○一年三組 海老澤 宏 主幹教諭

(八王子市立宮上中学校)

※一年の教材は、「ネット将棋」

○二年一組 戸上 琢也 主任教諭

(品川区立品川学園)

○二年二組 佐久間 理子 教諭

(調布市立第四中学校)

※二年の教材は、「仏の銀蔵」



【講話】

月田 行俊研究部長の研究発表に
続き、文部科学省初等中等教育局教

育課程課 教科調査官 澤田 浩一
先生に講話していただきました。

道德的価値についての理解を基に
「自己を見つめるとは」など、道德
科の本質的な内容から、道德科の評
価の在り方についてお話いただき
ました。

当日の資料の抜粋を掲載いたしま
す。

【道德科の授業とは】

「徳は身に於いて得るなり。」中国
の古典『礼記』にある言葉です。道
德的価値は、観念的に知っているだ
けでは十分でなく、身に付けていか
なければならぬものです。人は四
歳前後になれば、何が大事かおおよ
そ知っています。しかし、いくつに
なっても、特に思春期になれば、行
うことが難しくなります。行うこと
ができないのは、実は本当に知って

はいないのだとソクラテスは考えま
した。「無知の知」を自覚することか
ら始まるのです。道德的価値を教え
込むことはできません。当たり前と
知っていることを、当たり前に行う
ことがいかに難しいことであるか。
知情意が分かちがたく結びついた形
で、自分自身で気付かなければ、身
に付けることはできません。

道德の内容は、「教師と生徒が人間
としてのよりよい生き方を求め、共
に考え、共に語り合い、その実行に
努めるための共通の課題」です。

道德科の授業を構想する際にまず
考えるべきことは、「何を考えさせる
か」を発見することです。読み物教
材の場合には、教材をきちんと読む。
全ての文を矛盾なく、全ての文が意
味をもっているように読み、道德上

の問題を把握します。次いで、発問

を吟味する。心理を読むような問い

から脱却しなければなりません。す

つきりとたった一つの正解にたどり

着く問いではありません。教師と生

徒が行き詰まり、深く考え、生徒一

人一人が自分なりの納得解を探せる

ような問いが求められています。モ

ヤモヤし難しいけれど考え続けたい

問い。級友と語り合いさまざまな意

見を聴く中で、自己を見つめ、自己

内対話が行われます。自由な発言が

受容され、互いの個性を認め合い、

生徒一人一人の確かな存在感が保証

されている温かい雰囲気。抽象的な

道德的価値と具体的な自己の生き方

との間を行ったり来たりしながら、

生徒一人一人が自分にとって大切な

ものに気付いていける授業を目指し

ています。

研究のまとめと今後の課題

研究部長 月田 行俊

江東区立大島西中学校

今年度の研究部では年間十二回の

部会を開催し、研究主題にそった研

究を推進するとともに、第五二回全

日本中学校道德教育研究大会（兵庫

大会）、第四七回関東甲信越中学校

道德教育研究大会（山梨大会）に向

けて発表内容の検討、調査活動と紀

要作成に取り組んだ。

第一回から十二回までの活動報告

と取組についての成果と課題を以下

にまとめた。

一 活動報告

（第一回）

平成三十年四月十四日（土）

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・参加者自己紹介

②今年度の研究組織と研究主題・研

究計画について

③兵庫大会・山梨大会の提案者につ

いて

④総会・研修会に向けて

平成三十年五月十一日（金）

会場 中野サン Plaza

（第二回）

平成三十年五月十九日（土）

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ

（「二通の手紙」の指導案作成）

③第五二回全日本中学校

道德教育研究大会検討

提案 八王子市立宮上中学校

海老沢 宏 主幹教諭

④第四七回関東甲信越

中学校道德教育研究大会検討

提案 江戸川区立葛西第三中学校

城戸 加代子 主幹教諭

（第三回）

平成三十年六月十六日（土）

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ

（「二通の手紙」の指導案作成）

③第五二回全日本中学校

道德教育研究大会検討

④第四七回関東甲信越

中学校道德教育研究大会検討

⑤調査活動について

（第四回）

平成三十年七月二十五日（水）

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ

（「二通の手紙」の指導案作成）

③第五二回全日本中学校

道德教育研究大会検討

④第四七回関東甲信越中学校

道德教育研究大会検討

⑤調査活動について

（第五回）

平成三十年八月六日（月）

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ

（「二通の手紙」の指導案作成）

③第五二回全日本中学校

道徳教育研究大会検討

④第四七回関東甲信越中学校

道徳教育研究大会検討

⑤第一回部員総会・研修会に向けて

八月二十一日(火)中野サンプラザ

講師 東京都教職員研修センター

研修部教育経営課教授

峯川 一義 先生

⑥調査活動について

(第六回)

平成三十年九月十五日(土)

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ

〔「ネット将棋」「仏の銀蔵」の指導案作成〕

③第五二回全日本中学校

道徳教育研究大会検討

④第四七回関東甲信越中学校

道徳教育研究大会検討

⑤調査活動について

⑥研究紀要について

⑦研究発表大会に向けて

平成三十年二月十五日(金)

会場 昭島市立福島中学校

公開研究授業

一年二学級、二年二学級

講演会講師 文科省調査官

澤田 浩一 先生

(第七回)

平成三十年十月十三日(土)

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ

〔「ネット将棋」「仏の銀蔵」の指導案作成〕

③第五二回全日本中学校

道徳教育研究大会検討

④第四七回関東甲信越中学校

道徳教育研究大会検討

⑤調査活動について

⑥研究紀要について

(第八回)

平成三十年十一月十七日(土)

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ(分科会)

〔「ネット将棋」「仏の銀蔵」の指導案作成〕

③公開研究授業の授業者について

④調査活動について

⑤研究紀要について

(第九回)

平成三十年十二月十五日(土)

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ(分科会)

〔「ネット将棋」「仏の銀蔵」の指導案作成〕

③公開研究授業の授業者について

④調査活動について

⑤研究紀要について

⑥第二回部員総会・研修会に向けて

一月十八日(金) 中野サンプラザ

講師 江東区立大島西中学校

校長 月田 行俊

(第十回)

平成三十一年一月十二日(土)

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介

②ワークショップ(分科会)

〔「ネット将棋」「仏の銀蔵」の指導案作成〕

③公開研究授業の指導案様式・司会者等について

(第十一回)

平成三十一年二月二日(土)

会場 昭島市立福島中学校

①会長挨拶・自己紹介

②研究発表大会に向けて

会場確認・指導案検討



(第十二回)

平成三十一年三月九日(土)

会場 江東区立大島西中学校

①会長挨拶・自己紹介**②次年度の研究構想について****二 成果と課題**

今年度は、中学校の道德の教科書が採択され、いよいよ「特別の教科道德」への準備を加速しなければならない年となった。

評価のことが大きな話題であり、その対策に注目されがちだが、研究部としては、「授業力向上を目的とした教材研究」に力を入れ、まずは「二通の手紙」、「ネット将棋」、「仏の銀蔵」といった教材でワークシヨップを実施してきた。

そのことにより参加人数が増えるなど、部としての底上げも図ることができた。また、ワークシヨップの取組を踏まえて、研究発表会における公開研究授業につなげることににより、授業に対しての提案を行うことができるようにした。

今年度の第五二回全日本中学校道

徳教育研究大会(兵庫大会)、第四

七回関東甲信越中学校道徳教育研究大会(山梨大会)に向けた発表内容

やプレゼンテーション原稿の検討の際にも「授業力向上を目的とした教材研究」といった視点や各学校における道徳科推進のポイントを意識しながら協議会を行ってきた。

そして、長年取り組んでいる調査活動についても継続するとともに、東京都中学校道徳教育研究会のホームページを活用したウェブ調査を行い、集計作業等の簡素化を図った。

評価については、学習指導要領解説や文部科学省が示している資料などをまとめ、情報の共有化を図ったり、研究大会における先行事例などを集約し、提供したりするなどして蓄積し、実践を通して検証をしているところである。

生徒一人一人を認め、励ます個人

内評価とするため、「生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかという視点」、

「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかという視

点」、「発言が多くない生徒や考え

たことを文章に記述することが苦手

な生徒という視点」、「年間や学期

を通しての視点」をしっかりと押さえ

なければならない。

平成二十七年から実施している研究会部員による公開研究授業では、教材における「中心となる発問」と

「主題に迫る発問」を整理した指導

案で行うとともに、学級担任が評価をするという試みも実践し、その上で課題を整理していく。

今年度実践して得た成果を基に、

さらに授業力の向上を目指す必要がある。そのことを通して、生徒自身

が主体的・対話的で深い学びができるための効果的な指導案を様々な教材において作成・実践・検証していくことが課題である。

そして、第五三回全日本中学校道

徳教育研究大会(鳥取大会)の「道

徳科における指導と評価の在り方」

で提案していきたい。

また、第四八回関東甲信越中学校

道徳教育研究大会(茨城大会)の「

家庭や地域社会との連携を図った道

徳教育」についても、東京都として十分に検討し、発信していきたい。

都中道研のホームページ

[http://www3.schoolweb.ne.jp/](http://www3.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350004)

[swas/index.php?id=1350004](http://www3.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350004)

編集後記

一二〇号をお届けします。今号は都中道研、一年間の活動報告を中心に掲載しました。

次年度への新たな課題に向けて、道德教育をより一層推進していきましょう。一年間、都中道研広報誌の発行に際し、多くの先生方にご協力いただきましたことに厚く感謝申し上げます。

広報部

江戸川区立西葛西中学校 中村清忠
調布市立第五中学校 生野まゆみ
立川市立立川第五中学校 酒井佳子
大田区立出雲中学校 佐藤正敏
世田谷区立梅丘中学校 廣澤和子